

「戦争」と「平和」を考える

青年部部长 松下泰士

関西地本主催による、地本各支部青年部中心の初めての一泊平和学習交流会が3月5～6日の2日間、箕谷グリーンスポーツホテルで開催され、大阪支部青年部からは私と、横山副部长、松崎青年部員の3人が参加しました。

この平和学習交流会の目的は、



5月の沖縄平和行進の事前学習及び各支部青年部員の交流と自主的な学習をメインに、外部講師を招くのではなく、関西地本の青年部員たちで創り上げることを目指し、事前にも会議を重ねました。

築港支部吉田青年部長の司会により、神戸支部出身の小林地本青年部長の開会挨拶の後、藤崎地本書記長の挨拶、参加者自己紹介と進みました。

戦争が起きたら！？

メイン学習会のテーマは「なぜ戦争がダメなのか？」「実際に戦争が起きたらどうする？」「今、平和に向けて何をしなければいけないか？」の3点について、参加者15名が2班に分かれて議論をしました。意見では、「戦いや争い

のない、人びとの心が穏やかな世界」「あたり前に衣・食・住が保障され、格差がない、話しあえる社会」「他国と比べることで平和を実感する」「平和という言葉自体がなくなる世の中をめざしたい」など、平和を尊重する意見が多い一方で、「他国が攻撃してきて身

内に被害が及ぶなら戦う(戦争をする)」との意見もありました。

戦争する派、しない派に分かれて話し合いましたが、共通していたことは「命」を大切に思っていることでした。

まとめとして「大切な人たちの命を守るために戦う」のではなく、

「命を大切に思うからこそ、絶対戦争はしない、助け合う世界を目指す」と集約して、討議を終えました。

私の閉会あいさつの後、坂本地本青年部担当役員から、「今後、地本青年部として、時代の変化の中で青年部らしく新しい活動を活発に進めてほしい」との提言をもって閉会しました。

参加者は、この学習会を通じて、反戦・平和運動を進める意味を理解してくれたと確信しました。また、単なる学習や交流に止まらず、自分たちで調べ、議論するといった点でも大変良かったと感じています。何より参加者全員が、「面白かった」とか「良かった」という評価をしていたので、中味の濃い交流学習会になったのではないかと思います。

支部青年部でもこの経験を生かし、自主的テーマを挙げての学習会を開催していき、少しでも青年層の組織強化、労働者意識の向上に繋げていこうと感じました。

平和行進に向けて

沖縄戦当時のビデオを観たり、実際に戦争が起きると、一般市民はどうなるかなどについて議論しました。

なぜ戦争はいけないのか、それとは逆に、戦争をしたら良い事があるのか、いろいろな方向から戦争について考え、議論しました。

日頃、あまり深く考えてはい

ない事柄だったので、非常に勉強になりました。

この合宿は沖縄平和行進に参加するメンバーとの顔合わせもかねての学習会だったこともあり、平和行進に際しても、みんな一致団結できるよう、決意をよりいっそう強固にしました。

(大正埠頭分会・松崎)



2009年10月

中井商店の不当労働行為が認められる

大阪府労働委員会は3月22日、(株)中井商店の不当労働行為を認めた命令書を組合に交付した。

中井商店分会は、会社の一方的な賃下げなど、労働諸条件の不利益変更にも不満をもち、2009年に大阪支部に加入した。

会社は当初から弁護士2名と社労士を団体交渉に入れ、団交場所もほとんどが弁護士事務所だった。支部・分会は、会社での団交交渉開催や集団交渉への参加を要求してきたが、まったく聞き入れようとはしなかった。

賃上げについても、就業規則に賃上げが明記されているにも関わらず、ゼロ回答が現在まで続いており、会長は「賃金は一切上げない」などと公言してきた。

安全面についても、タイヤのワイヤーが見えても交換しようとしなかったなど、道交法違反に問われて

もおかしくないような対応だった。交渉には現在、3人もの弁護士が出ているにも関わらず、これらへの指導はいっさい行わない、あきれ果てる交渉態度だった。分会は我慢強く交渉を続けてきた。

しかし、会長や社長、副社長の態度は一向に変わらず、労働者の生活向上や安全を考えていない。



これでは生活どころか怪我をする可能性も高く、労働委員会に訴えるか十分に検討した結果、2015年3月に大阪府労働委員会に訴えた。そして今年3月22日、大阪府労働委員会において、組合が主張した内容の就業規則に記載されてい

る賞与について業績により連動としているが夏季冬季も固定された金額の支給 交渉における会社の資料の提示 特別給付金について説明もなく支給した件など、すべて組合の主張した内容が認められた。

会社の主張したことは採用されずに「労働組合法第7条第2号に該当する不当労働行為である」と命令書が出されたが、会社は不満として、大阪府労働委員会の命令には従わない様子である。

会社は府労委命令を真摯に受け止め、組合と分会に謝罪し、今後、誠実に交渉を行うこと、就業規則通り定昇の引き上げ(実施)と一時金の引き上げ、また安全面においても適正な対応をしなければいけない。中井商店分会員の生活を守るためにこれからも粘り強くたたかう。(陣内)

3・13自動車パレード開催！

迫力！250台が結集

執行委員 陣内恒治

今年の16春闘は初めて、生コン関連労働組合連合会ということで、生コン産業、トラック産業の

山元委員長は「生コン業界も広域協組にまとまって本格的に私たちの賃金賃上げができるための料



山城博治氏・御堂筋

再建を訴えるため、6労組が1つになって3月13日（日）自動車パレードが開催された。全港湾大阪支部、連帯労働組合は港区海遊館臨時駐車場に生コン車、ポンプ車、鋼材車など250台を結集させ、大阪支部からは12台が参加した。建交労は北港地区に分かれて開催された。

今年は沖縄から山城博治さん（沖縄平和人権センター議長）も参加して「辺野古新基地建設反対！」「戦争法反対」を訴え、また「沖縄意見広告の取り組みで連帯労組が生コン車1台を辺野古に輸送しゲート前の阻止行動で活躍したことのお礼と今後の闘いに連帯して闘おう」とあいさつされた。

金のひき上げの取り組みが進みつつある。アベノミクスを3年間やってきたが失敗をした。経済の状況を変えていくためには私たちの大幅な賃上げが必要だ。そして戦争法案は強行可決され、3月29日に施行となっている。多くの人びとは諦めないで『戦争法案を廃止しろ』という合

言葉で運動を進めている。

3月19日には大阪府下100カ所で2000万人署名が街頭で展開されました。

また、5月



3日には扇町公園にて2万人の労働者を集めて廃止にむけて集会が取り組まれる。政治的課題と生活向上のために結合させ16春闘を頑張ろう」と訴えた。

車両は9時からデモに出発し、港通りから長堀橋、中央大通りをパレードして北浜に向かい、御堂筋を南下して高島屋前を通過し、元町で流れ解散した。

最終の車両は12時を回るくらい圧巻なデモで、このように市民に見える闘いを構築させ、社会を変えていこう。



出発を待つトラック群

意見広告キャラバン
九州・中国ルート編

書記次長 小林勝彦

4月4日～8日の5日間、第7期沖縄意見広告運動全国キャラバンの一員として九州・中国ルートに参加した。

沖縄意見広告運動は沖縄の痛みを、全ての人びとの痛みとして、みんなで受けとめよう！「普天間即時閉鎖、辺野古（海・陸）やめろ、海兵隊いらない」このような想いのもと、沖縄意見広告運動は2010年3月に発起され国内外の新聞各社への意見広告掲載を行ってきました。

同時に、オスプレイ配備反対・訓練反対を掲げ、沖縄平和運動センター議長である山城博治氏を隊長とした複数名のメンバーで、オスプレイ飛行ルートを中心に各県庁に対しての配備、飛行反対の要請活動を行って来ました。しかし、安倍政権発足後、急速に進められた辺野古新基地建設、民意を無視した戦争法案など、戦争ができる国造りを阻止するために、国内で唯一毎日闘争している辺野古に昨年からは抗議行動に行く事になる。

沖縄意見広告運動の当初の趣旨

である「今、沖縄で何が起こっているのか全国に伝えるため」第7期から地方ごとに分けて宣伝活動、ビラ配布を駅前などで行う事となった。

4月4日夜、大阪南港よりフェリーに乗り翌朝5日、大分県別府港に着き、その足で大分駅向い駅前にて宣伝活動を開始した。九州ルートの活動箇所は5日、6日の午前中で大分駅、熊本駅、博多駅の計3カ所で平均30分足らずで、総数570人の方が受け取ってくれた。



九州ルートで感じたのは、大分駅、熊本駅では「辺野古の基地建設反対の活動をしています。良かったら読んでみて下さい」と訴えながら渡していくと、受取率も高く短時間でかなりの方が受け取ってくれました。それに対して、九州の玄関口でもある博多駅では、出張風のサラリーマンや旅行者はほとんど受け取らず、元々ビラ自体を避ける傾向があると感じた。

6日午後から7日、8日にかけ中国ルートを回った。最初に独裁者、安倍の地元である山口県の新山口駅に向かったが、新幹線も止まる大きな駅舎だ。作った意味があるのか？いや間違いなく無駄な駅である事を証明するかのよう



人がいない！仕方なく宿泊地の近くの宇部新川駅にて配布活動を開始する。独裁者の地元なので期待できず、人の通りも少なかったが学生を中心に若い人が丁寧に受け取ってくれた。

その後、広島駅にて京都の歌姫がメンバーに加わり広島の商店街、島根の松江駅、鳥取の鳥取駅、鳥取砂丘、岡山の蒜山高原、最終活動地の倉敷駅計6カ所をギターとピアノを演奏し、戦争反対の替え歌を交えての明るくリズムカルな宣伝活動を行い、通行量の少ない地方の場所ではあったが、短い時間で総数770人が受け取ってくれた。



今回の全国キャラバンを振り返り何より感じたのは、ポスターを掲げてビラ配布、ご苦労様と声をかけわかって取ってくれる人や、わからずに取ってくれる人いろんな方がいます。周りから見れば無駄と思う方もいるだろう。でも、この地道な活動により、辺野古の現状をわからなかった方、知らなかった方が気付く事が一番大事であると実感し、確信した。

大和に住む人が沖縄の問題と思うのでは無く、われわれの問題だと思ふ事が重要である。何故なら沖縄も大和も同じ日本であるからだこれから強く発信していく事をあらためて感じる事ができた。キャラバン隊のメンバーである事の誇りに感謝したい。

さよなら原発3・13集会

帰還を強要する政府

忘れてはいけないフクシマ

書記次長 吉 馴 真 一

「さよなら原発関西アクション」が3月13日午後1時から中之島中央公会堂において、1300人（主催者発表）の参加のもと開催され、支部からも40名以上が参加しました。



集会では、福島原発告訴団団長の武藤類子さん、ノンフィクション作家の広瀬隆さんが講演され、終了後は難波までデモが行われました。

武藤さんは、映像をつかいながら、「6年目のフクシマ」とのテーマで、事故発生から現在までのさまざまな状況を話されました。

「事故はまだまだ収束せず、広範囲で放射線管理区域レベルの汚染が続いています。また、福島の子どもたちの甲状腺がんが異常発生し、167名（がんとかんの疑い含め）にも至っているにもかかわらず、国も県も原発事故との関係を認めようとしません。

また、県では「震災関連死」が2000人を超えました。

増え続ける汚染物

福島原発では、日々400トンの地下水が建屋に流れ込み、処理が追いつかず汚染水は増え続け、それを溜めるタンクも凄い数です。

そこでは毎日約7000人もの労働者が事故収束作業を行い、高線量下で極めて過酷な被ばく労働を強いられています。

除染作業で出た土や草木などの汚染廃棄物も、本来ならば

ドラム缶に密封して管理すべきものが、あまりの多さに『フレコンバック（1メートル四方）』に詰め、県内だけで1030万個！以上、それも人びとの生活圏のいたるところに置かれ、大雨で中身が川に流れだす事態も起きています。皆さん、この

増え続けるフレコンバックや汚染水タンクの凄い量を見ましたか？

（※注 これらの写真を掲載した雑誌が支部があるので、是非ご覧ください）。言葉では表現できない現状がそこにはあります。この根本原因である福島原発からは、目に見えない放射能がまだまだ出続けるのです。」

国や福島県は、事故前の年間許容被ばく線量の1ミリシーベルトを20ミリシーベルトまでは「安全」とし、来年3月までに、帰還困難区域以外の「避難区域」を解除し、帰還による被ばくの強要政策を強行しようとしています。

自分がその立場に置かれた場合、果たして帰還するのか？ 仕事、医療、買物、子供の健康や教育などのすべてに被ばくの恐怖がつきまとうことを考えれば、とうてい、帰還などできません。

見通しの立たない福島原発の収束作業、深刻な被ばく生活を余儀なくされている避難者や被災者の不安や苦しみは、日々、増すばかりにもかわらず、「避難指示の解除」とともに支援策の縮小、慰謝料の打ち切りなど、未来に希望



を持たない残酷な政策を推し進める安倍政治を許してはなりません。

福島原発事故は5年が経った今も続いています。私たちはその事を決して忘れず、この現実を一人でも多くの人に伝え、関心を持つ人を増やすことを、毎日の生活から地道に実行していきましょう。

中央公会堂をあふれる参加者

辺野古に基地はつくらせない

「3・27『廃止しよう！戦争法、とめよう！辺野古新基地建設』関西集会」が3月27日午後2時から中之島中央公会堂にて、稲嶺進さん（沖縄県名護市長、オール沖縄会議共同代表）と青木理さん（ジャーナリスト）をメイン・ゲストに迎えて開催された。

2年越しの準備のもと、呼びかけ団体18、賛同団体45、賛同人110名を超え、稲嶺市長が関西の集会に初めて来られたこともあり、2階席までぎっしり埋まる1300人以上もの参加があった。沖縄からは、安次富浩さん（ヘリ基地反対協議会共同代表）と照屋寛徳氏（衆議院議員）も駆けつけて、連帯あいさつを頂いた。

稲嶺市長は、5億円以上集まった辺野古基金のうち、70%は本土からのカンパであることへのお礼を述べ、「辺野古に行ったことがない方は、ぜひ、グート前や海上に来て頂き、現場の生の様子を見聞きし、自分の肌で感じて頂く、このことがさらに連帯を強め、広がることに繋がるだろう。多くの方が足を運んでくれることを期待

したい」と話された。また、名護市民の支援の様子、工事の状況、裁判闘争の和解の持つ意味、訪米の報告などについても話された。



青木理さんは「いま一番恐れていること」と題して講演された。

以前に沖縄翁長知事と長時間インタビューしたこと、日米安保体制あるいは沖縄の基地問題と安倍政権の問題点を報告されました。

その後は、稲嶺市長との対談形式で進められた。今後、辺野古の、河川埋立工事については、名護市長の権限により承認しがたいことや、辺野古の地元の人たちには、賛成派はいなくて、戦後の米国による銃剣とブルドーザーで土地を

今の状況を変えてほしいということもあり、公約として、「辺野古の海にも陸にも新しい基地は作らせない」という公約を掲げて市民はしっかりと認めてくれて当選した。

また、沖縄の新聞2紙に対して、本土の一部では「基地の記事で飯を食べている」というデマを「沖縄では戦後も支配が繰り返されて

いることをきちんと知らせることが役割と思う」と言われた。

最後に「政党は政党でイデオロギーはあるが1点共闘ということで、沖縄だけでなく本土も頑張ってやらないといけない」と訴えた。

そのあと兵庫、奈良、京都から決意表明を受け、集会後は、西梅田公園までデモをして解散した。

辺野古現地では裁判闘争の和解により工事は止まっているが、政府は工事強行の構えを崩さず、職員を配置したままだ。

反対する私たちは退職教職員たちも参加して、3月30日には約150人が集まり、31日は100人と集まり、移設作業を強行する構えを崩さない政府に抗議している。また、4月10日午後3時から普天間飛行場のメインゲート前で開かれる「フェンスを取っ払おう！取り戻そう普天間大集会」への参加を呼び掛けた。



収奪されたことで、辺野古でも諦めるしかないのなら取るものは取るという条件付き容認をしている人もいるが、稲嶺市長が当選したのは容認派もあわせ、